

マスク着用緩和「いまはマスクを外せるタイミング」政府の方針に専門家が見解

2023/2/15 テレビ愛知

生解説 マスク緩和 専門家はどう見る? **52**
マスク着用の考え方 (厚生労働省・マスクの着用についてより)

現在

屋外
原則不要
2m以内の会話は着用

屋内
距離が確保でき
会話をほとんど行わない場合を除き
着用推奨

来月13日以降

屋外 屋内
“個人の判断”
着用を推奨する場面

- 混雑した電車やバスの中
- 医療機関
- 高齢者施設など

マスクの着用 (テレビ愛知)

政府のマスク着用緩和方針について、愛知県立大学教授で感染制御学が専門の清水宣明さんに話を聞きました。

マスク着用緩和のタイミング 今で問題ない

――5 類に移行になるよりも一足先にマスクの着用緩和となりそうですが問題ないですか。

元々マスクの着用は義務ではなく、お願いになっています。そのため法定や法律に基づく調整や準備が要らないことと、感染者が現状大きく減っているのも、マスク着用緩和のタイミングは今で問題ないかと思います。

――今回の緩和の内容を改めて確認します。現在は屋外では原則不要ですが、2m 以内で会話をする場合は着用推奨になっています。屋内では距離が確保できて会話をほとんど行わない場合を除いて、基本的には着用推奨になっています。

3月13日以降は屋外屋内問わず個人の判断に委ねることになり、着用を推奨する場面として、混雑した電車やバスの中、医療機関、高齢者施設は例示されていますが、個人の判断ということで考え方としてもかなり変わりますね。

そうですね。マスクをしていても感染リスクは多少残りますが、そのリスクよりも感染者数が減っているのも、切り替えをしても良い時期だと思います。

マスク着用時の感染リスク 1日あたり0.5%

――感染リスクが減ったというデータなどはありますか。

今まで色々な研究で、マスクを着けていると着けていない時と比べて感染リスクが約半分に下がることがわかっています。ということは50%感染リスクが残るわけです。

流行期間を100日間とすると、少し大雑把な計算にはなりますが、1日あたりの感染リスクはマスクを着けていても0.5%程度あることになります。

現在の名古屋市や愛知県の感染者数を見ると、隠れ感染者（感染しても検査として出てこない方）を含めても、感染している方は1000人に1人、0.1%程度になります。そうすると、マスクをしないで感染している方に愛知県で会う確率は、マスクをしても避けられない感染リスクよりも小さくなっています。そのためマスクはもう外しても良いと思っています。

生解説 マスク緩和 専門家はどう見る? 5/3/4

清水教授 感染リスクの考え方

マスク着用時の感染確率 **約50%**

流行期間100日と仮定
→ 1日当たり **0.5%**

現在の愛知県の感染者 **1000人に1人くらい 0.1%**

愛知県立大学 看護学部
清水 宣明教授
感染制御学が専門

――単純にこの0.5%という数字と0.1%という数字は比べても良いのですか。
はい。0.5%の方は実際には非常に複雑な計算になりますが、大きくは変わらない数字になるので比較しても問題ないかと思います。

感染状況によっては着用判断を

――感染状況によって着用判断してほしいということですが、どういう意味でしょうか。今の感染している確率は0.1%ぐらいになります。そのため、マスクをつけたときの感染リスクよりも低くなってしまっているためマスクはいらないと思っています。

段々感染した人が増えてきて1000人に5人、0.5%程度になってきたら感染リスクが上がってきたと判断し、マスクをつけた方がいいのではないかと思います。

さらに増えて100人に1人ぐらいに近づいてきた時にはイベントやお店、学校でもマスクをつけてくださいとお願いをしてもいいのではないかと思いますので、このような数字を少し意識して判断すると良いと思います。

生解説 マスク緩和 専門家はどう見る? 5/4/4

感染状況によって着用を判断

イベントや店でのマスク着用要請	100人に1人 1%
マスクを付けたときの1日の感染リスク	1000人に5人 0.5%
現在の感染者率 マスク不要	1000人に1人 0.1%

――外しても問題ないと言われても、簡単に外すというのは難しいというのが街の声としてあるので、時と場合によって付けるか付けないかの判断をした方がいいということですね。

そうですね、急に変えるのではなく、皆さんも新型コロナに慣れてきているので、これまでの経験を活かして少しずつ変えていく判断ができるようになればいいかと思います。